

269

269

明治十六年九月

第六號

廣島山林學研究會報告

禁賣買

宿題

建築用材抽出方法

松茸其他菌貯蓄方

右答詞御回送ノ事

廣島山林學研究會報告第六號

補題

建築用材薪炭材共冬期伐採スレハ如何ナ

理由アリテ利益多キ哉

答建築材

長尾尙六

建築材ヲ冬季ニ伐採スルハ左ニ列記スル利益アレハ也

一木液運行中伐木スレハ新層中ニ有機物アリテ腐敗シ  
易ニ冬期ハ此患ナシ

一冬期伐採スレハ材ノ乾燥徐々ニシテ割裂ヲ防シヘシ  
一冬期ハ農ノ閑隙ナルヲ以テ農務ヲ妨ケス運搬ニ便アリ

- 一 雪中ハ運搬ノ便アルノミナラス雪中ニ非レハ運搬シ能ハサル所アリ
  - 一 稚苗ヲ損傷セズ苗芽ヲ害セズ
  - 一 蠶虫ヲ生スル事ナシ且蠶虫アル材ナレハ氷ニ浸シ之ヲ驅ルニ便ナリ
  - 一 樹ニ由リ種子ヲ收ムルヲ得ヘシ
  - 一 夏時濕地ニ材ヲ置ケハ腐朽シ易シ冬ハ其患ナシ
  - 一 夏時ノ如ク材色變スルノ患ナシ
  - 一 山業者樵夫也過テ火ヲ失スルモ容易ク防クヘシ
  - 一 川下シノ便夏時ニ優レリ
  - 一 苗木樹ノ伐採此季ニ於テスレハ苗木ノ勢力ヲ壯ニス
  - 一 山業者夏時ノ如ク疲勞セズ業ヲ竣ル多シトス
- 答薪炭材 同人

- 薪炭材冬季伐採スレハ左ニ列記スル所ノ利益アリ
- 一 木炭ハ糞ニ針葉樹ノ炭トナスヘカテサル問題ニ於テ論スル如ク炭素ノ殘留スルモノニシテ凝集力強カラサレハ良炭ヲ得カタシ木液運行中伐採シテ炭ヲ製スル時ハ有機物ノ飛散多ク委縮甚クシテ其質ヤ脆シ故ニ製炭ノ量其容積ニ比較シテ少シトス隨テ火力モ幾分カ減スルモノナリ其質堅實ナルモノハ火力熾ニシテ其脆キモノヨリハ費消少ナクシテ久シキヲ持ス故ニ冬季伐採ヲ利益アリトス
  - 一 凡テ木炭ヲ製スルニハ其材料新鮮綠色ニ過キ或ハ乾燥ニ過クルキハ製炭ノ量少シ冬期ハ此患ナシ
  - 一 其他運搬ノ便農業ヲ妨ケス雪中運搬種苗ヲ傷セズ苗木ヲ害セズ採種防火等ハ建築材ノ答ニ列記スルト同

會員八田新七子大日本山林會ノ質問ニ答ヘラレタル寫  
ヲ得タルハ左ニ掲ク

### 用材林杉毛上損益勘定

一金貳拾圓 初年 山地買入代

山反別壹町步買入代金但シ券面地價五圓地味上等

嶮岨

一金貳圓拾四錢同 雜草蒔拂代

杉苗木植附ニ付雜草蒔拂費此人足貳拾人但シ壹人  
ニ付一日玄米貳升六錢替ニシテ本文通此賃米四斗

一金拾貳圓 同 杉苗買入代

苗木六千本買入代但シ壹本ニ付貳厘地壹坪ニ付貳

本宛ノ植込ト見テ壹町步植附數本文ノ通

一金三圓六拾錢同 苗木植附費

苗木六千本植附一日壹人ニ付貳百本植込此人足三  
拾人分此賃米壹人ニ付玄米貳升六錢替ニシテ本文

ノ通米六斗

小內金三拾八圓

五十九年目

元利合三百九拾八圓四拾六錢 壹ケ年六朱利息ニシテ十  
ケ年毎ヲ疊ニ上段ノ通リ

一金壹圓貳拾錢 貳ケ年目 手入費

雜草蒔拂代此人足拾人此賃米前ニ同シ  
四十九ケ年目

元利合拾貳圓拾壹錢 此元利合前ニ同シ

一金壹圓貳拾錢 三ケ年目 同

前同斷

四十八ケ年目

元利合拾壹圓六拾三錢九厘 同  
一金壹圓貳拾錢 五ヶ年目 同

前同斷  
四十六ヶ年目

元利合拾圓六拾九錢五厘 同  
一金壹圓貳拾錢 十ヶ年目 同

苗木密木ニ付伐透此人足賃別段出費ニ不及伐木ニ  
ヲ辨出ス 但伐木ヲ與レ遣ス也

一金壹圓貳拾錢 十五ヶ年目 同  
前同斷

小内元金四拾壹圓六拾錢  
元利合金四百三拾貳圓九拾錢四厘

一金百四拾五圓余 地租金  
地租壹ヶ年拾貳錢五厘ト見テ壹ヶ年壹割利子ヲ加

五十五ヶ年目元利本文之通  
合計金五百七拾七圓九拾錢四厘

一金千圓 立木拂代  
此杉千本 平均壹本ニ付價壹圓ト見積

内百圓 山番給金引  
殘九百圓

### 薪炭林損益勘定

一金七拾圓 初年 山地買入代  
山反別五町步買入代但シ地券面地價拾七圓地味中

等ニシテ嶮岨

一金四拾圓 伐拂代但シ炭貳千俵ト見積リ  
壹俵ニ付貳錢替

内 四 圓 山番給賣拂代ノ壹割ヲ給與ス  
拾圓三拾錢 地租金一ケ年凡四拾貳錢ト見積ヲ

一ケ年利息一割ヲ加ユ十三ケ年目  
上段ノ通リ

拾四圓三拾錢 利益  
差引貳拾五圓七拾錢

是ケ年壹割ノ利子附年々元金ニ戻レハ一ケ年分割當リ  
金七拾四錢五厘五毛ニナル尙地代金七拾圓ニ割レハ百  
歩ノ一歩六毛三五余ニ當ル則百圓ノ地代ナレハ壹圓六  
錢三厘五毛ニ當ル

### 宿題

建築材ト薪炭材ヲ仕立ツルハ何レ乎利益

### 多キヤ

答

前田 莞爾

凡テ建築材ト薪炭材ト利益ノ多少ハ木種ノ異別運搬ノ  
便否供給需用ノ權衡如何ニ起因シ各地異全アリ豫メ之  
ヲ期シ難シト雖モ人造ヲ以木種改植シ而テ建築材ヲ成  
育セハ或ハ其益薪炭材ニ優ルナキニアラサレモ天造林  
ニ依テ仕立ツルルキハ本縣ノ如キ松栲等多生ノ山林ハ薪  
炭材ヲ成育スルノ利益多シトス如何トナレハ建築材ト  
ナスモノハ四五十年ヲ經歷シタルモノニ非ラサレハ  
概テ供用シ難シ薪炭材ハ然ラス四五十年以前ト雖モ  
適セサルモノニ非ス抑樹木ニ速生ノ年度アリ或ハ有限  
樹アリ或ハ無限樹アリ則松栲ノ如キハ五十年以後ハ年  
毎ニ生スル所ノ利益ヲ減スルモノトス佛士キユルノオ

「氏云ヘル」アリ松樹ハ十年ヨリ四十年迄ハ毎年壹割  
餘四十年ヨリ五十年迄ハ八分三厘五十年ヨリ六十年迄  
ハ三分三厘六十年ヨリ七十年迄ハ二分三厘ノ益アルモ  
七十年以後ハ益ナシト依之余輩既往ト現在ノ事實徴鑑  
スルニキユルノオド氏ノ云ルハ誣ユルアラサルヲ因信  
シテ疑ハス以テ是ノ問題ニ答所以ナリ

明治十六年三月三日出版御届

廣島區平塚町  
九十五番邸

# 廣島山林學研究會假事務所

滋賀縣近江國坂田郡烏居本村  
一番地

編輯兼  
出版人

福 島 哲 三

廣島縣廣島區平塚町  
九十五番邸寄留

